

英知通信



昭和48年6月10日

英知大学

No.8

入学を祝して

—昭和四八年度入学者二〇五名—

昭和四十八年度入学式は、四月九日(月)、午前十時より大学講堂において挙行された。式は関知子講師によるパイオルガンの前奏をもって始まり、壺内弘吉教授が聖書を朗読し、入学式の祈りを先唱した。岸英司学長による式辞のあと、ジャン・メルロー教授のピアノ伴奏によって、大学歌が斉唱された。司会は松本信愛講師があつた。
本年度入学者は、神学科九名(うち女子六名)、英文学科一〇〇名(六三名)、イスパニア文学科四六名(一九名)、フランス文学科五〇名(二七名)、計二〇五名(一一四名)である。

式辞

学長 岸 英司

入学おめでとう

きょうここに新入生の皆さんをお迎えし、ご父兄の方々のご出席を頂き、教職員および在学生の皆さんと共に、昭和四十八年度英知大学の入学式を挙行いたしますことは、私の大きな喜びであります。私はここに本大学を代表し、新入生の皆さんとご父兄の方々に、ご入学を心よりお祝い申し上げます。

大学とは何か

大学は中世ヨーロッパの普遍的学校 Studium Generale に始まったものでありますが、そのはじめから Universitas 大学は研究の場であると共に教授と学生が共に生きる場でもありました。
大学を意味するようになったラテン語の Universitas はいろいろな学問の総合 Universitas Literarum の意味を荷ったものであります。大学において学問の総合と共に人生の共同が意味され追求されたのであります。この理想はこんにちの大学でも変わりありません。しかしその実現は非常に困難な事柄であります。大学は私達の人生における最後の

学校であり、最高学府とよばれます。大学は単に教師が一方的に教える所でもなければ、また学生が単に自分たちだけで学ぶ所でもありません。それは教師と学生が共に研究する場であります。おおよそ共同研究というものは共同のそして共通の目標なるものがあってはじめて成立するものであります。
大学における教師と学生との共同の研究目標は何であるのでしょうかそれは真理なるものでなければなりません。それゆえ大学の存在は真



理の存在を前提とするものであります。古代ギリシャの哲学者であつたヘラクレイトスは次の様に申しております。
「吾に聴かず、ロゴスに聴け」と。

ロゴスとは彼において言葉であり、真理であり神でありました。彼のこの偉大なる言葉のうちに真理の使徒なる教師の姿があざやかにあらわれております。

さて大学において共同研究の目標として、学における真理なるものを追求することは、私達の人生にとって、どのような意味を持つのでしょうか。それは私達に人生の在り方を教えるのであります。すなわち私達

は生きてゆくために他者を必要としており、私達の人生は他者に開かれた人生であり、それは普遍的真理において共に生きることによって可能とされるということを悟るからであります。人生における対話の原理を教えたユダヤの哲学者マルチン・ブーバーの言葉をかりて言えば、「われ」と「なんじ」の関係においてはじめて「われ」というものが存在するというのであります。人間は他者「なんじ」においてはじめて「われ」という実存となるということであります。そして「われ」と「なんじ」が共に生きる根底は「永遠のなんじ」神であるということであります。キリスト教は本来宇宙の根本構造、神なるものが愛であることを教えております。それは私達の人生が他者に開かれた存在であるということを教えるものであります。人間は孤独でもなければ、また孤独であつてはならないのであります。他者に開かれた人生、愛に生きる人生こそ真の人生であります。皆さんは大学生生活の間にこのことを体験して頂きたいのであります。

私達の人生は友と共にある生活であります。新入生の皆さんはこれからは英知大学生として教師と友となると共に学友ともまた友となる人生をこれからはじめられるのであります。

カトリック大学とは何か

さてご承知の様に英知大学はアメリカ・カナダに幾多の姉妹校を持つカトリック大学であります。カトリック大学とは神を中心とする世界観

によって、人間が神以外の一切のものに隷属することなく、真理の獲得によって、真に解放された、自由なる人間の育成を目標とする大学のことであります。単に社会のためと国家のための大学ではなく、真の人間となるための、人間のための大学なのであります。私達ひとりひとは独自の価値を持つのです。そ

文学部長 山崎正雄教授
叙勲される



本学文学部長、山崎正雄教授は春の叙勲により、政府から勲三等旭日中綬章を授けられた。

これは山崎教授の長年にわたる教育界への貢献に対する評価にもとづくものであって、教授を文学部長兼英文学部長と仰ぐ英知大学全体にとってこの上もない名誉であると言わざるを得ない。

山崎正雄教授は、明治三十六年、兵庫県朝来郡山東町に生まれ、第三高等学校文科を経て、昭和二年、京都帝国大学文学部英文学を卒業、同大学院で研究を続けられた。教授は和歌山経済専門学校（現在の和歌山大学）で教職をとられていたが、昭和二十四年より母校京都大学に招かれ、昭和四十一年三月、定年退職・名誉教授となられた英文学者、教育者である。

英知大学に英文学が開設されるや山崎教授は初代学部長故田辺教授

のひとりひとりの持つ可能性を追求するのであります。私達が真に人間となるべきとき、社会を生かし、国家を生かし、世界を生かすことができま

私達ひとりひとりの人生を導く光社会と国家を生かす知恵、これは神から来る英知であります。英知大学がその名称とする英知—サビエンチ

の招きを受けて、昭和四十一年四月より本学に就任、昭和四十四年より英文学部長として学生の教育と指導を続けられている。

「大学におけるカウンセリ
ングの必要性」

王 谷 直 実

本学の講義にも話した事例であるが、ある大学の相談室に女子学生がやって来て言った。「どういふわけか学校へ行こうとすると部屋が地震のようにゆれ動き危く立てなくなると、しばらくそのままではいると、これは本場の地震ではないことがわかる。どうしたことでしょう」と。その大学のカウンセラーは一流の心理学者だったので、その話を聞いていただけで、彼女の心の中に起りつつある動きがよくわかったという。この女子学生は高校時代、全く男子学生に関心を抱かず、ひたすら勉学に励んできた。ところが大学に入ってから心の奥底で、そういう現在の自分から脱却し一人の愛される女性と

アとはこのような神から来る英知であります。それは一切の知恵の根源であり、一切の知識を超えた知恵であります。東洋も西洋もこの知恵を求めてまいりました。私達は単なる知識に満足しないのであります。知識の否定ではなく、知識を生かす知恵を求めないのであります。これが英知大学創立の精神であります。

してより新しい自我を獲得したいという可能性が動きはじめたのである。それは、この人の場合、男子学生に対する最も未分化な関心、つまり男性恐怖という形であらわれ、男子学生のある学校へは行けないという。かるい学校恐怖症となっておそ

ギリシヤ神話にこんな話がある。美しい姫ペルセポネが春の野で花を摘んでいると、地下の王ハデスが突然地下から馬のつてやって来てペルセポネを略奪してしまった。ペルセポネの母デメーテルは嘆き悲しみゼウスにたのんで娘をかえしてもらおうとした。しかし地下でザクロを食べた姫は、地上にすっかりかえることは出来ず地下に一年の¹/₃いることになった。その間この地上には冬がくる、というのである、春のめぐめは、ハデスが地下からとび出すように若者の心を地震のようにどよめかす。その度合は時にはげしいノイローゼ症状をも招来する位だ。

カウンセリングとは、この例のように、常識の糸ではとけない問題を専門的に「共感」できる人を通じて解決へと導き、そこから人間の発展の可能性をさぐり出すとするもの

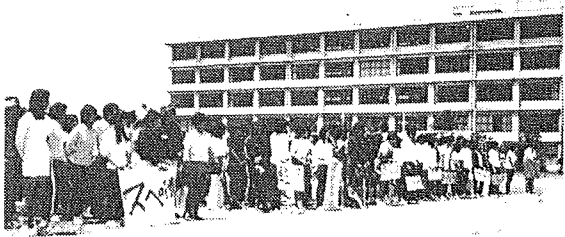
新入生の皆さんが、これから英知大学の学風を学び、教師と学友に対し、理解と信頼とを持って友情のきずなでかたく結ばれながら、この四年間を有意義に過ごされるよう祈りながら、私の式辞といたします。

である。人は時により、そのような援助を必要とすることがあるのではないだろうか。

(筆者は本学講師 心理学)

全学一体の雰囲気なかで

第十回英知大学体育祭は、五月二十五日、午前九時半より開催、高岡健二(英・三)実行委員長の指揮のもとに、多彩な行事がくりひろげられた。本年度はとくに教職員が学生とともに各競技種目に加わって行うということで、終始和気あいあいとした全学一体となった雰囲気がかもし出されていた。



昭和四十八年度
入学者出身校

(カッコ内は二名以上の場合)

公立

- 市立神港(4) 須磨(3) 芦屋(3) 塚(3) 乙訓(3) 神戸(2) 泉尾(2) 尼崎北(2) 赤塚山(2) 明石南(2) 吹田(2) 枚方(2) 和泉(2) 橋本(2) 神戸西(2) 花園(2) 姫路工業(2) 桃谷、秩父、大阪市立、城東工業
- 東淀川、伊丹、三木、北淀、南部
- 寝屋川、東住吉、西宮、此花工業
- 泉大津、港、御影、一条、住吉商
- 出水、膳所、防府商業、勝山(岡山)
- 山)、大和川、鈴蘭台、鳴尾、明
- 石、鳳、上五島、尼崎西、神戸商業、羽水宇和、東舞鶴、大垣工業
- 市立堺、勝山(大阪)播磨、三原
- 童野実業、三次、東商業、高砂、穴水、広陵、御影工業、名西、市立工芸、千里、津久見、常滑、夢野台、検定合格。

私立

- 啓明女子学院(9) 百合学院(7) 神
- 港(6) 滝川(5) 金蘭千里(5) 大阪
- (5) 羽衣学院(4) 樟蔭東(4) 神戸
- 育英(4) 成器商業(3) 大阪信愛(3)
- 和歌山信愛(3) 愛徳学院(2) 賢明
- 学院(2) 大阪学院(2) 興国商業(2)
- 大阪女学院(2) 興国商業(2) 大阪
- 女学院(2) 三田学院(2) 成徳学院
- (2) 成蹊女子(2) 大阪貿易(2) 聖
- マリア(2) 啓光学院(2) 被昇天、
- 海星、白陵、梅花、洛星、明星、
- 桜山学院、福山曉の星、光塩女子、
- ノートルダム女学院、雲雀丘学園
- 星光学院、須磨女子、名古屋聖心、
- 大阪工大附属、松蔭、向陽、白星
- 岡田学園、仁川学院、愛泉、北陽
- 曉星女子、聖母学院、東洋大附属
- 箕面自由学園、塩原女子、東京自
- 由学園、神戸村野工業、山陽学園
- 奈良育英、浪花女子、城星学園。

社会学雑誌感

—第45回大会から—

西山俊彦



本年度日本社会学大会は十月十四、五日の両日、法政大学六二年館で行なわれた。六二年

館は本館とは外濠をへだてた向う側学生時代よく散策した辺りである。国電市ヶ谷を下りてお濠端を急ぐ足にも往時が偲ばれた。大会は、第一日目シンポジウム、第二日目一般報告とテーマ部会、と大別される。仲々盛沢山のご馳走であった。全部は食べられない。小生の消化によいもので、好みに合ったものを摘まんだまである。本学のバプチスト講師の姿も見えた。余り同席しなかったのは好みが違っていたからか——従って食後感も自ずと違っているに違いない。

高田社会学

「社会学原理」など理論社会学の分野で文化功労章を受けた高田保馬先生が亡くなった。本年二月二日のこと数え年八十九才であった。高田社会学として定着している先生の業績を記念して、シンポジウムA「日本社会学と高田社会学」が企画されたのも当然であろう。焦点は勢力理論であって、劈頭を飾る向井利昌先生（神戸大）の報告は第三史観に迄及び、庄巻であった。因に、向井先生が高田保馬先生の高弟であるとは自他

共に認めるところである。宇津栄祐（中央大）の報告は高田社会学と当時の社会情勢との関係を浮彫りにした曰く、「天皇制の枠内で、そして『国体の思想と歴史』の支配的影響のもとで、高田はそれに適合した心理学的社会学の体系化をめざし、特殊日本の形式社会学を構想して行った」と。宇津報告は、社会を客観的に究明しようとする社会学もやはり時代の子であること、社会科学者が時代と共に歩みつつしかも自主性を保ち時代に先行するインテリゲンチアとしての役割を果たすことがいかにむづかしいかの例証を聴いているかのようであった。富水健一（東大）の第三報告は、高田の勢力理論は、戦後主流を占めた行為理論とも接合可能なばかりでなく、高田理論は真正デモクラシーを背景にして形成された戦前の日本で数少ない民主主義的社會思想を体系化した社会学である、と論証した。これは宇津報告と視点を異にするポジイテイヴな評価であった。

理論の偏向？

一般研究報告は、社会学史、基礎理論、家族、地域、都市、職業、階層、労働、社会心理、社会意識、アジア社会と近代化、社会病理、社会問題、調査法の10のグループ別に行なわれた。テーマ部会では「役割理論の再検討」、「政治とコミュニケーション」、「住民運動とローカリ

ズム」、「労働者意識の変容」、「人口の急増と地域社会」、「社会学における歴史的方法」の6つのテーマに従って報告討論が花を咲かせた。一般研究・テーマ部会とも事例研究とか要因分析などが多数を占め、公害、人口問題等々今日の課題に挑む姿勢が研究体制の中にも熟していることを窺わせた。但し、研究体制と参加者の意識とは必ずしも一致しない——住民運動、人口増加；等の部会が参加者もマバラであった反面、理論部会には予備椅子の持込みようもない程の盛況を呈していたのは日本社会学の体質を物語る何とも皮肉な現象と云うべきか。

社会学に何ができる？

シンポジウムB「社会変動と社会学」では二つの激しい「告発」があった。一つは林武（アジア経済研）の「『第三世界』の社会変動と社会学」、他は宮崎義一（横浜国大）の「70年代世界の変動と課題」と題する報告で、林武は「第三世界」の近代化のデスプレートな状態を分析、宮崎義一は多国籍企業とかコングロマリットの分析を通して「現代資本主義」論の限界を指摘、これに対処すべき社会学者の姿勢を問うた。両者の難詰を小生は次のように理解した。社会学者の研究態勢には果して「人間」が中心に据えられているのだろうか、また、社会というものを少数集団とか未開社会に限定せず地球大に拡大しようとする理論的実践的枠組を持合せているのだろうか、と。これに対し並いる社会学者は普なしの構えを取った。原告の主張を主張通り是認したのか、はた又、今後

期すところがあったためか。階級論で有名なダーレンドルフは次のように云う。「二〇世紀中葉たる現在、社会学者は一種奇妙な立場におかれている。社会学者は、彼の専門分野の基礎を確立し確保しはじめたところでありながら、他方、世間の人びとから、直接役に立つ、しかも包括的な解決を、ますます性急に求められるようになりつつある。殆んどあらゆる社会学会議の席上で、信頼すべきジャーナリスト諸氏は、社会学者が現実の問題について知識をもっていないとか、それを解決する能力がないとかいって告発する。社会学者は、彼の理論、方法および研究技術を発展させるさいには、もっぱらすべての学問に共通する規準だけに忠実であればよいのであって、もし不心得者がいて、科学の道を理解せず、何かそれ以上の要求をするようなことがあれば、社会学者は胸を張って、学者の責任というものを自信をもって擁護し、あまりにも迎合をもとめすぎる世界の誤謬にたいして自己を主張してよいのであり、またそうすべきなのである」。以上のダーレンドルフの言は社会学者の科学者としての良識の見解か、はたまた、世間に通用しない専門家の戯言か。因に、ダーレンドルフは現在拡大ECの通商担当委員として活躍している。

一大決議？

三年前マイアミでのアメリカ社会学会「社会学の不毛性」について採めた。ヤング・パワー、ウーマン・パワー、ブラック・パワーからの告発である。これを受けた一昨年の

ワシントン大会では「アメリカの帝国主義的搾取非難」を宣言、その他にも女性の職業差別についての委員会設置、黒人自身が黒人問題に対処する実行委の学会内設置に関する決議をした。日本社会学はこれ程直接的な社会参画は好まない。にも拘らず、第四五回大会総会では「原水爆被災資料が日々散逸しつつある現状は日本社会学会としまして誠意に憂慮にたえない次第であります。原水爆被災資料センターの設立と、昭和五十年国勢調査の際に原水爆被災者についての基礎的な付帯調査を実施されるよう」との内閣総理大臣宛要望書を決議した。控え目であるだけなおさら、ここに社会学を科学する者の自意識が感じられてならない。あに、内輪者の単なる肩目なのだろうか。

（筆者は本学助教授、社会学）

人事

退職

昭和四十八年三月三十一日付

教授 フェリーペ・カルバボ

助教授 瀬尾 修

講師 パトリック・B・シーヒー

講師 サトゥルニノ・マルチネス

新任

昭和四十八年四月一日付

講師 玉谷 直実

講師 ジョゼフ・フィナティ

講師 中野 正勝

研究室便り

森田諒二教授(喜多史郎筆名)
「日英動詞比較論」を出版
長年の夢をついに実現



英文学教授 森田諒二
先生は、長年にわたる深い研究の成果をまとめて、このほど修光社

より「日英動詞比較論」を出版した。
これは、昭和四十五年に出版した「日英語比較論」につづく英語学関係における森田教授の業績である。
教授のライフ・ワークとも云うべきこれらの著書を世に問うに際して、つぎのように感想を述べられている。

「思えば昭和十九年、戦争がますます悪化していったころ、私は召集を受けて満洲へ行きました。そこでロシア軍とぶつかり、右腕に敵の弾丸を受けて負傷。ただちに内地に帰れどもどされ、第三国立病院に入院させられました。そのころから、私は言語というものについてつくづくと考えてみるようになりました。言葉には生きた感情が含まれているはずではないだろうか。ところがそんなことをまったく無視して、三十年ものあいだ中学で英語を教えていったのです。感情のこもった英語を教えないと、ほんとうの英語を教えたことにはならない。そこで私は手あたり次第洋画のシナリオを集めては、例

をあげてみますと、That was your problem という表現は、「私の知ったことじゃない」という意味で、これは「動詞+名詞」という形式になっております。日本語と英語の表現上の相違を学生諸君に理解してもらいたい。このように願って私は十年以上ものあいだ、さまざまな表現をひとつひとつカードに書いて、分類してきました。

これらの著書はその対象を中学生から大学生まで、英語を学ぶすべてのひとびととしております。とくに英文法を教えている英語の先生方のお役に立っているよううかがっております。これらのライフ・ワークが研究書、参考書としてひとりでも多くのかたがたにお役に立てば、これ以上うれいしことはありません。ちなみに森田教授は、昭和十九年に研究社より「シナリオと口語表現」を、昭和三十六年には「口語英語練習帳」を出版されている。長年にわたる森田先生の深いご研究と業績にたいして心より賛辞をおくりたいものである。

○染田秀藤講師(イスペインア文学科)

は、恵美子夫人(関西大学講師)とともに、六月より来年三月までの十ヶ月間、メキシコへ留学、コレヒオ・デ・メヒコで研究に励むことになった。研究分野は十六世紀の中南米の歴史である。出版を直前にひかえて染田講師は、「現地の教授たちとともに共同研究にあたるわけであるが、できるだけ資料をあさって、じゅうぶん成果をあげてみたい。」と語っている。

○清水汎兼任講師(アメリカ文学)は、五月十二日、午後二時より、関西学院大学において開かれた日本アメリカ文学会関西支部会において、「死とマーク・ツイーン」という題目で研究発表を行った。

就職状況―例年通り好調

昭和四十七年度卒業生の就職状況は良好で、神学科は男女とも一〇〇%、英文学科では男子七九%、女子一〇〇%、イスペインア文学科では男子九五%、女子一〇〇%、フランス文学科では男子一〇〇%、女子八八%となっている。全学科の就職率を平均すると、男子八七・七%、女子九六・八%という成績である。各学科の卒業生の主な就職先は次の通りである。

- 直田電業社(株)、第一電工(株)、日本図書販売(株)、地方公務員。
英文学科
三和銀行、大末建設(株)、タナベ製菓(株)、帝國ピストリング(株)
丸大食品(株)、伊藤忠燃料(株)、ビユーローベリタス社、アルキヤン・アジア・リミテッド、スポーツニッポン新聞社。
イスペインア文学科
近畿コカコーラボトリング(株)、協和銀行、大倉建設、神戸製鋼所、大阪国際ホテル、ライト工業、サントリーフーズ、みどり書房。
フランス文学科
ダスキン、稲畑香料、日本包装運輸、神清カーゴサービス、関西デール(株)、ロイヤルホテル、辰野(株)、木下商事(株)

図書館報告

昭和47年4月1日(昭和48年3月31日)

Table with columns for book categories (人文, 社会, 自然, etc.), counts (増, 計, 所蔵, 計), and total counts (増加冊数, 所蔵冊数).

フリッシュ教授による特別講演

テイヤール・ド・シャルダンの研究で知られている上智大学、I・Kフリッシュ教授(人類学)は、五月二十八日、午前九時より、本学H三〇一教室において、「テイヤールの進化観と人類社会の未来」と題して特別講演を行い多大の感銘を与えた。



昭和47年度入館者および利用図書冊数統計

Table with statistics: 入館者数 14,518人(推定), 開館日数 272日, 一日平均 537人, 館外帯出 3,757冊, 館内閲覧 673冊, 計 4,430冊

英知通信

昭和四十八年六月十日発行
編集者 英知大学学長
発行者 広報室

兵庫県尼崎市若王寺苗田(06)四九一―五〇〇の二 六六一